荒磯割烹
鯉魚腸 初輯

一名八代目國十郎の
はなし

久保田彦作著
守山園畫

青盛堂加々吉板

久保田彦作著

守川周重画

上

4518
1

荒磯割烹鯉魚膓

初編

上の巻

加く吉板

<48-8369>

八代目園十郎物語の序

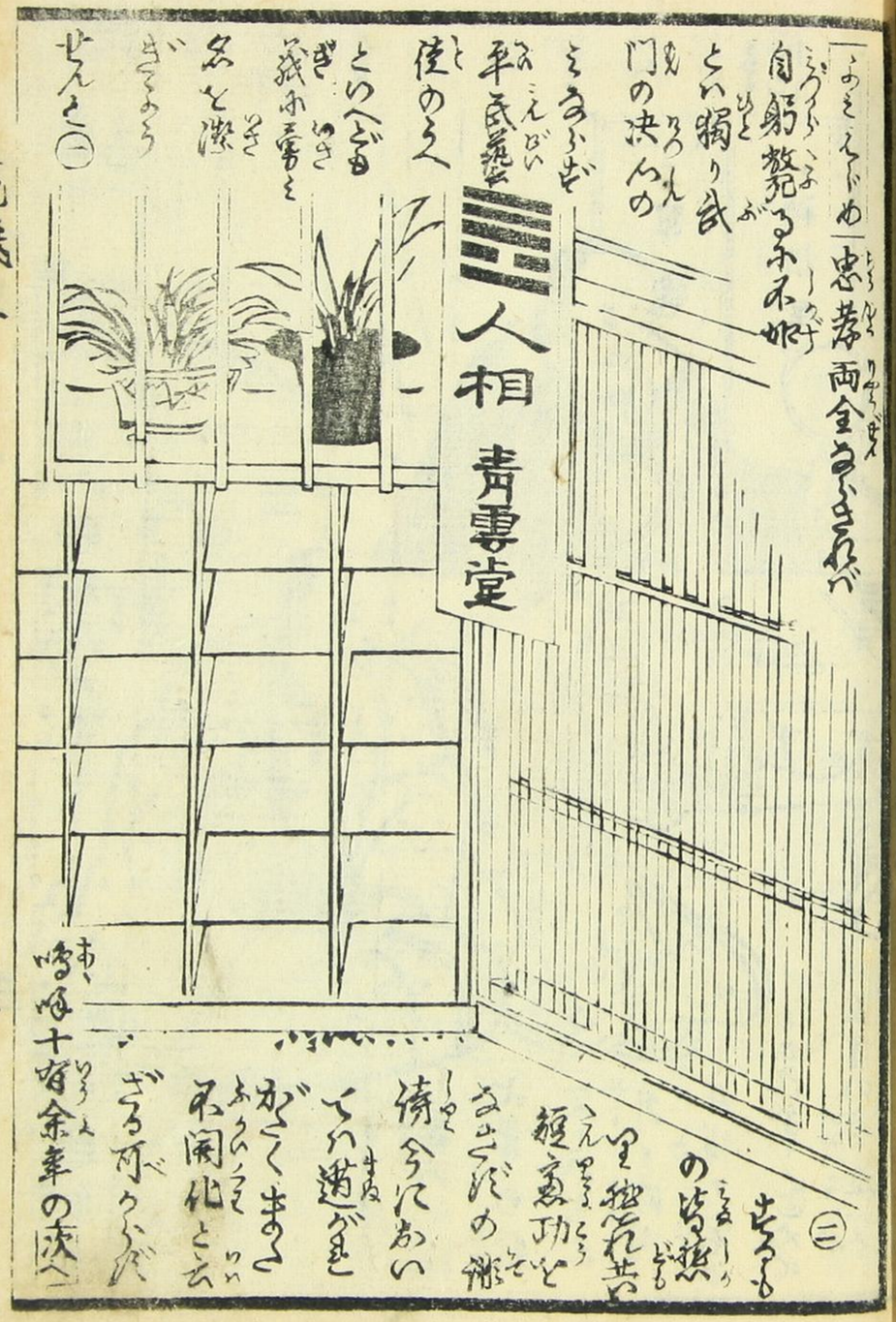
已に歌舞伎と新聞へ両道兼て開しさ廻らぬ筆ぶ猶更ふ動ふ報知のチョンといふ其柏子木の柏子より乗り魯翁が著述の荒磯割烹を所謂換骨奪胎して綜合せし箱根の怪談今ア開明の世社中ふ変ふ趣向の野暮献立鯉のちふわく活作と我庖丁の鈍きゆゑ脚色の其土礎とたいぼくなちの世と仰合されぜ春を當るる草双紙を少し更てる鯉に因む。當年積って卅六歳未ざ刎出しの平ま作者

明治十四年一月

久保田彦作記

木屋孫左エ門の娘
御奉公人深見
八代目
市川團十郎
富士見坂
踏ふり分よ
錦り出る
浪華の藝子梅子

愛妾かため
白猿隠居しと
壽海老人

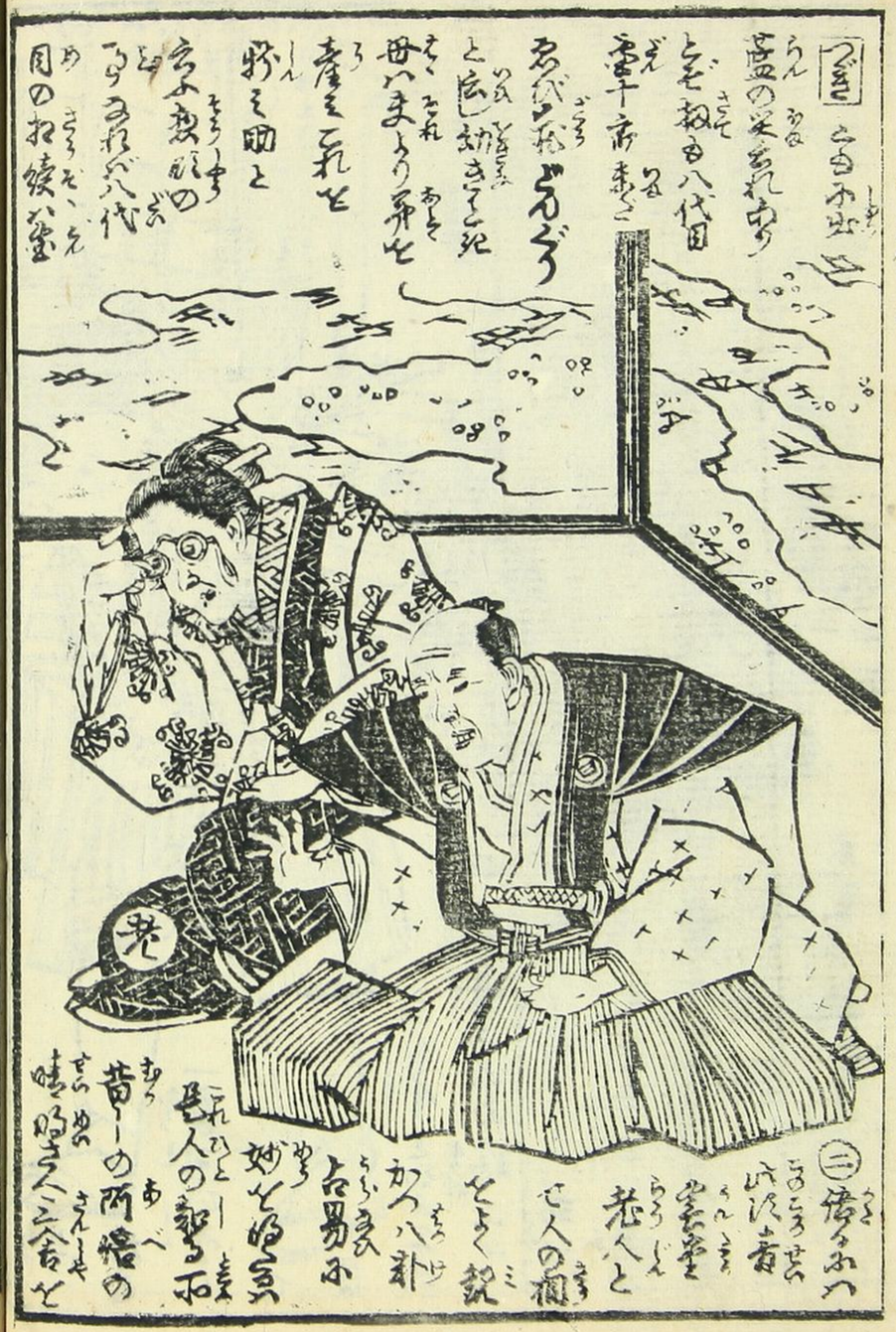

人相
青雲堂

(二)
綾店ゑ寓ー
あひ強
迫て
(三)
(四)
自ゑん
せ
その
發濁と
たづねるに
そも園十
郎ハ文政
七年の秋
父七代目三
郎が源川
ゑ場の宅ゑ
ゑれ年恋めて
五才の冬迎文

まぐ淌く人氣
狡智ゑおどもる
ゑ
ひ淨蓋ゑ濁る
者ハ蓋ー閑ゑ
その
城ゑいくゑざるゑ
ら抓蓋ゑ解出せ
ゑ
治りハ市川連綿と八代を
相續世
園十郎が
一世の事迄
ゑーて後年
浪花の(一)
松本幸四郎
のゑころゑ
拾ゑれ課町
中村社の
鶴ゑ世
ゑ云ゑ
箱見丸
ゑ杉ど
次へ

「ぶき」物産と物ぶ成長ふまさ
ぐひ性温和実直ゆゑて
かのにも虚喝の
云と吐ど
(一)
(白)
(四)
(五)
(六)

(二)
母
阿
佛尼の
如く
ねど父母ふ(三)
ふ金子とりふその
孝ごゝろ
既ふ先哲寺門
一夏同じ所
大紫法服受ふ学び

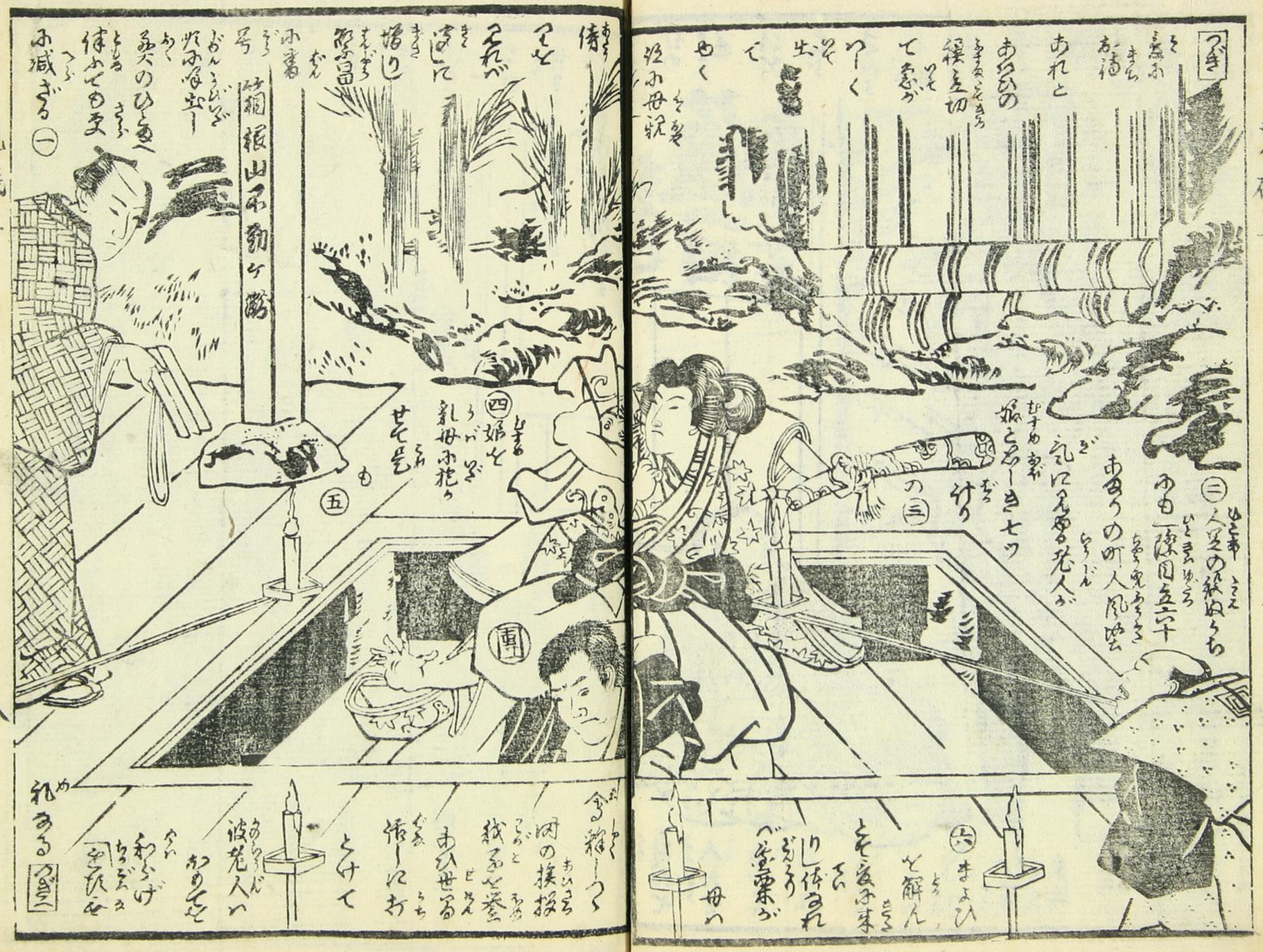


老

中
七

幕一張
白
四

魚一網
東
三

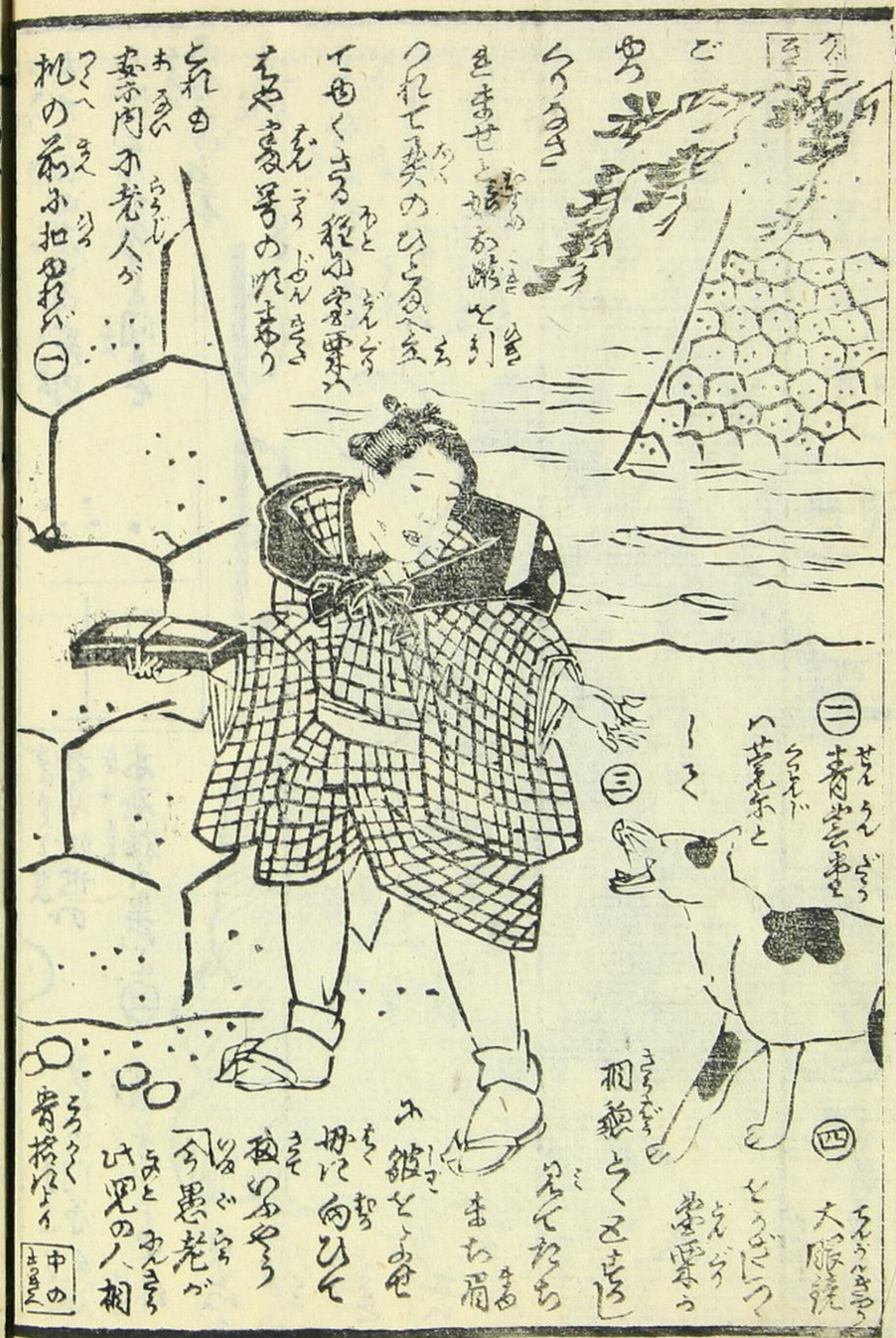

つゞき
あれと
あるうのの人形屋
(三)
(四)
(五)
(六)
箱根山不動ヶ嶽
(一)

(三)とろろ汁がお目かかる

(四)中本描で

(五)中本浪世の本座孫五郎へと

(六)中ものこれなるハ猫り姫おさきとて中ものこんぜくものの世界とい年ゑ入れどあるやうしさるおてんがで困るとのかゆとと世と蓑与河のさいちくるしおろう



荒磯割烹鯉魚腸

五編 久保田彦作著

八代目團十郎の[illegible]切 守川周重画

渡辺文京作

離い菊操錦

三編 三冊

孟斉考虎画

金花胡蝶記

三編 三冊

守川周重画

渡辺文京作

久ン児京闇鴉

三編 三冊

守川周重画

篠田仙果作

藻塩草近世奇談

三編 三冊

孟斉考虎画

吉

地本錦絵問屋

日本橋區西國吉川町五番地

青盛堂

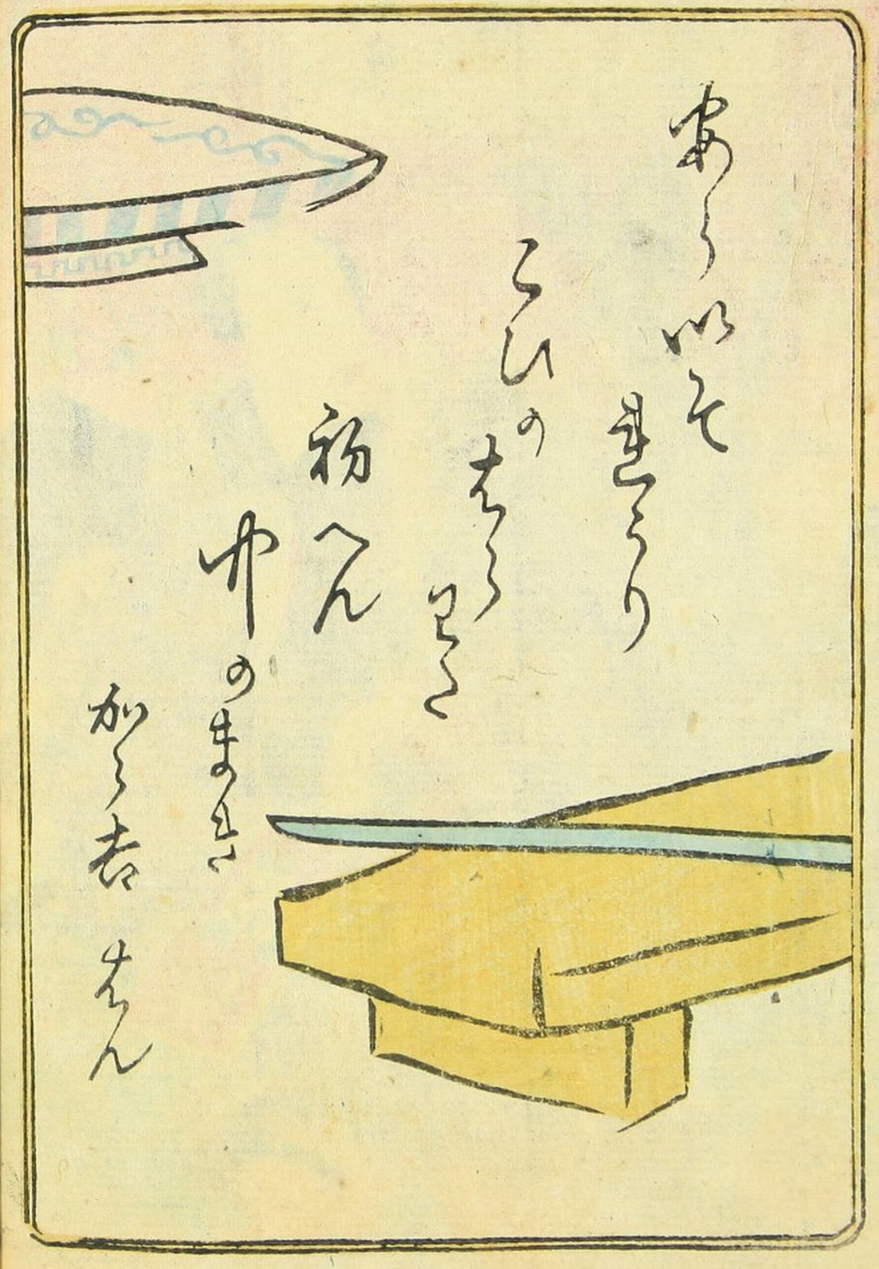
加賀屋

堤吉兵衛

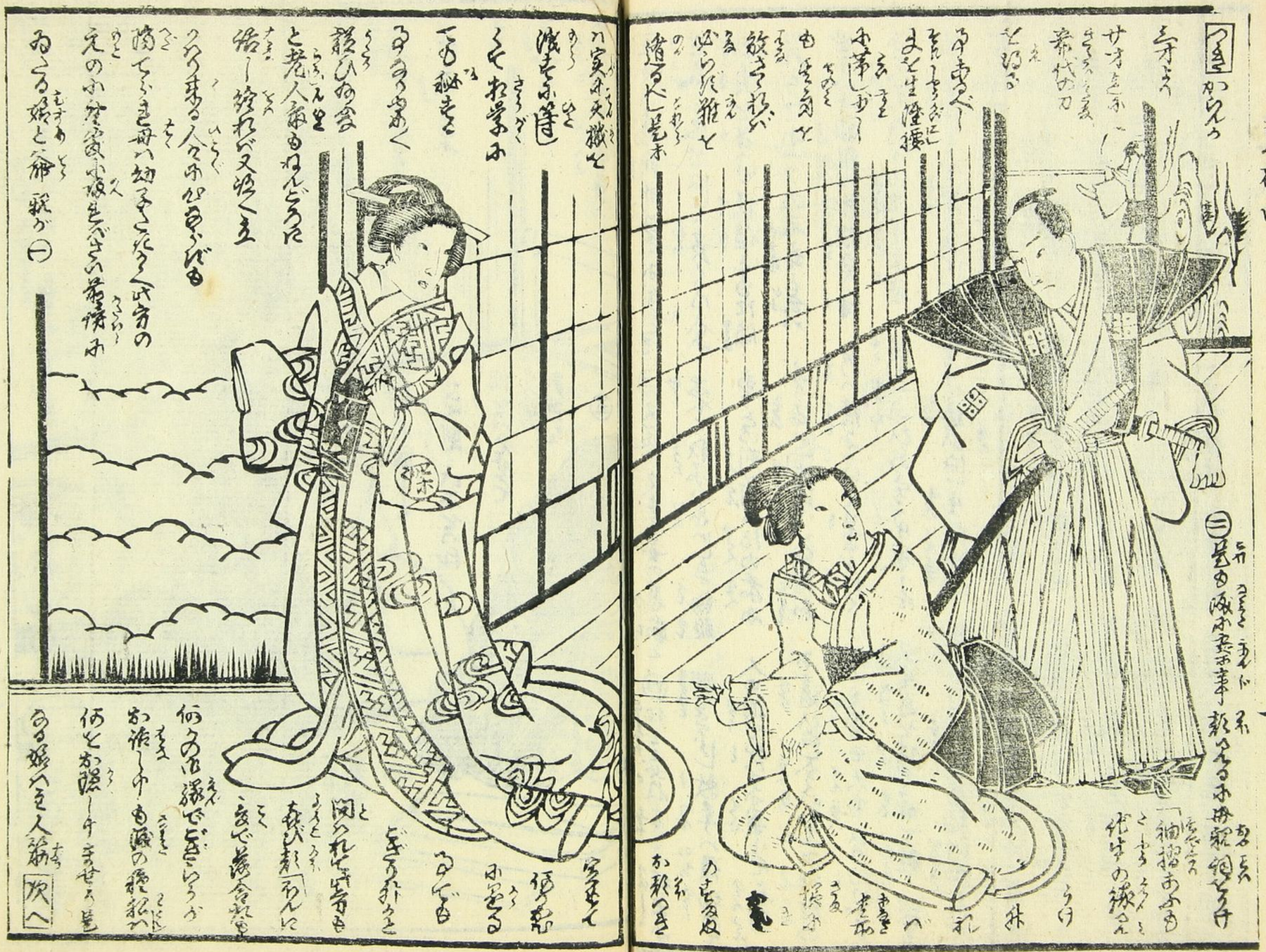
荒磯割烹
鯉魚腸

一名八代目
團十郎の
はじ

中

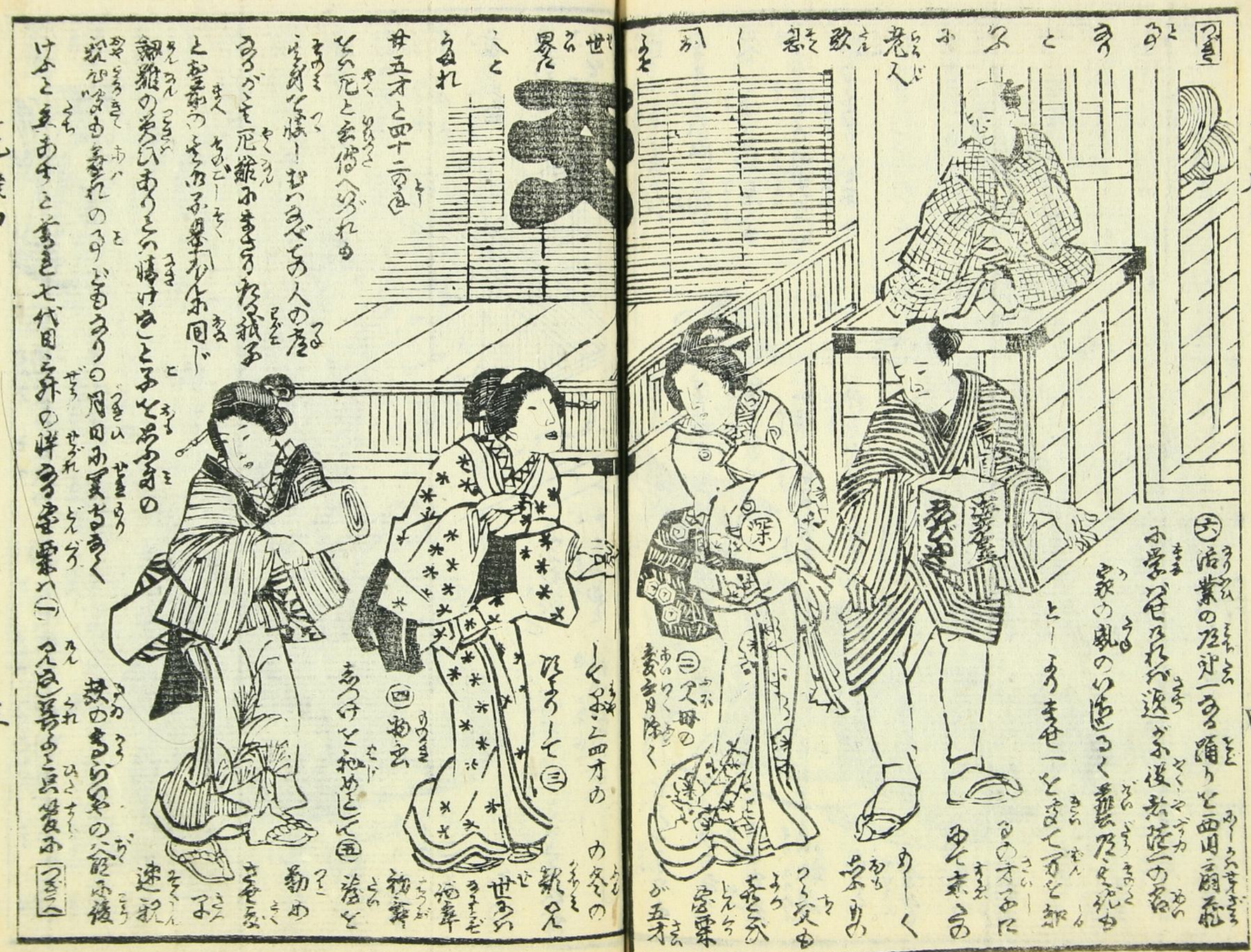


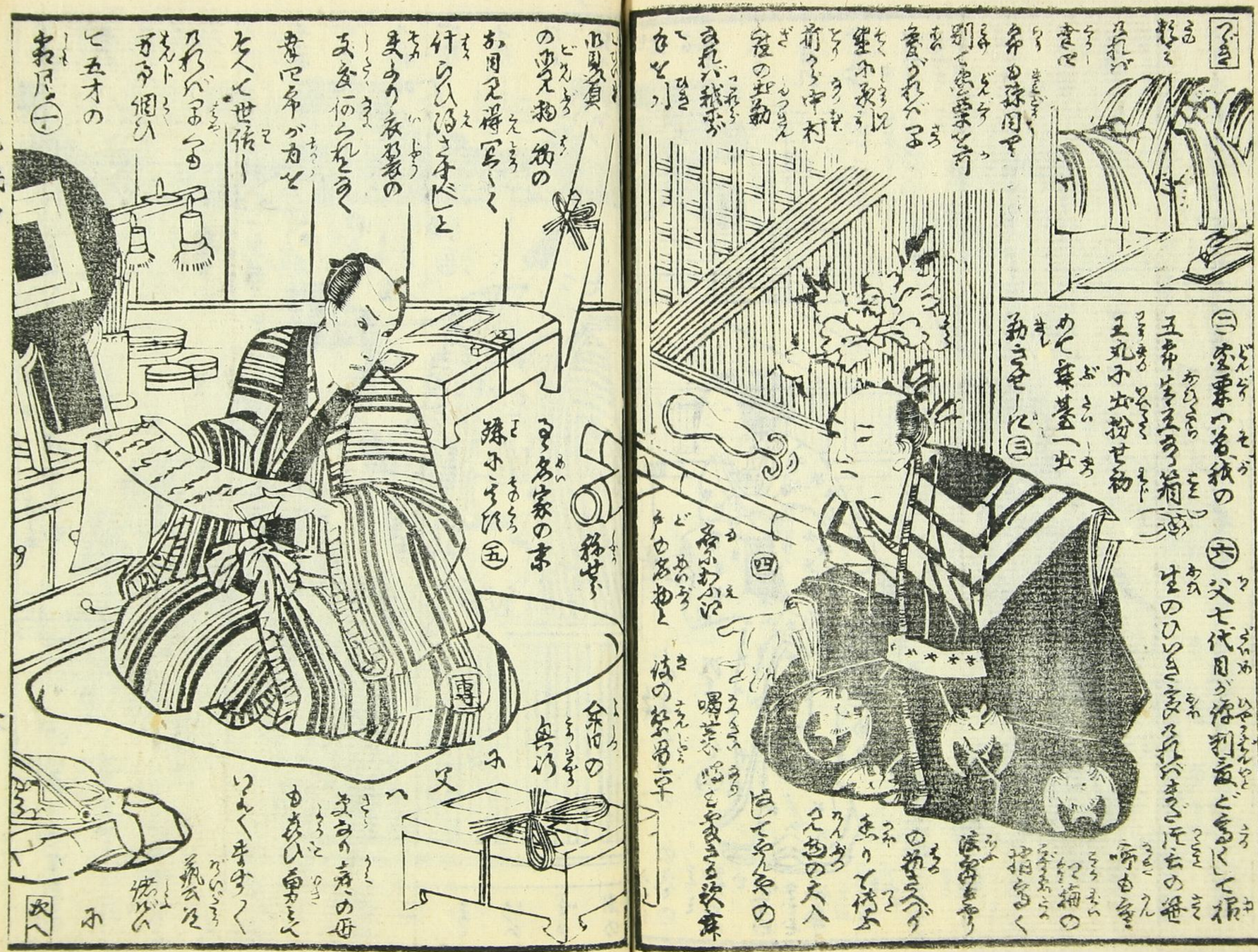
世界ふ名を以て多くの人ふ　妻と我子ハ忘じ難き煩雑
[illegible]と多くの判断ふ扨の業ふ　願なきなり　数事ハ後悔めて
いれどもふ一つの不吉と云へ　ふ遠ひ已ふ[illegible]ふ煩雑の
世ふ[illegible]煩雑の和顔多く律　所ハ続ふ[illegible]ふ果して　人の相と新ふ果して和
ふ天死多くの光陰[illegible]　後年[illegible]　相の名[illegible]も天命多く[illegible]
[illegible]と恐[illegible]を　[illegible]ふ遠ひ已ふ煩雑を　又[illegible]と続く[illegible]
[illegible]ふ[illegible]通多ふ　[illegible]ふ煩雑を除　[illegible]
[illegible]ハ何ものハ[illegible]　[illegible]と共ふ押久も　ふ煩雑と除くふ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ふ天命多ふ　[illegible]ふ[illegible]と　[illegible]ハ[illegible]ふ如し
と老人も[illegible]と続くも　毒ぐて[illegible]　共ふ[illegible]ハ所人流武士の業ふ
[illegible]母[illegible]ふ多ふ㊀　「これ猿年[illegible]業に㊂　[illegible]ハ果て[illegible]

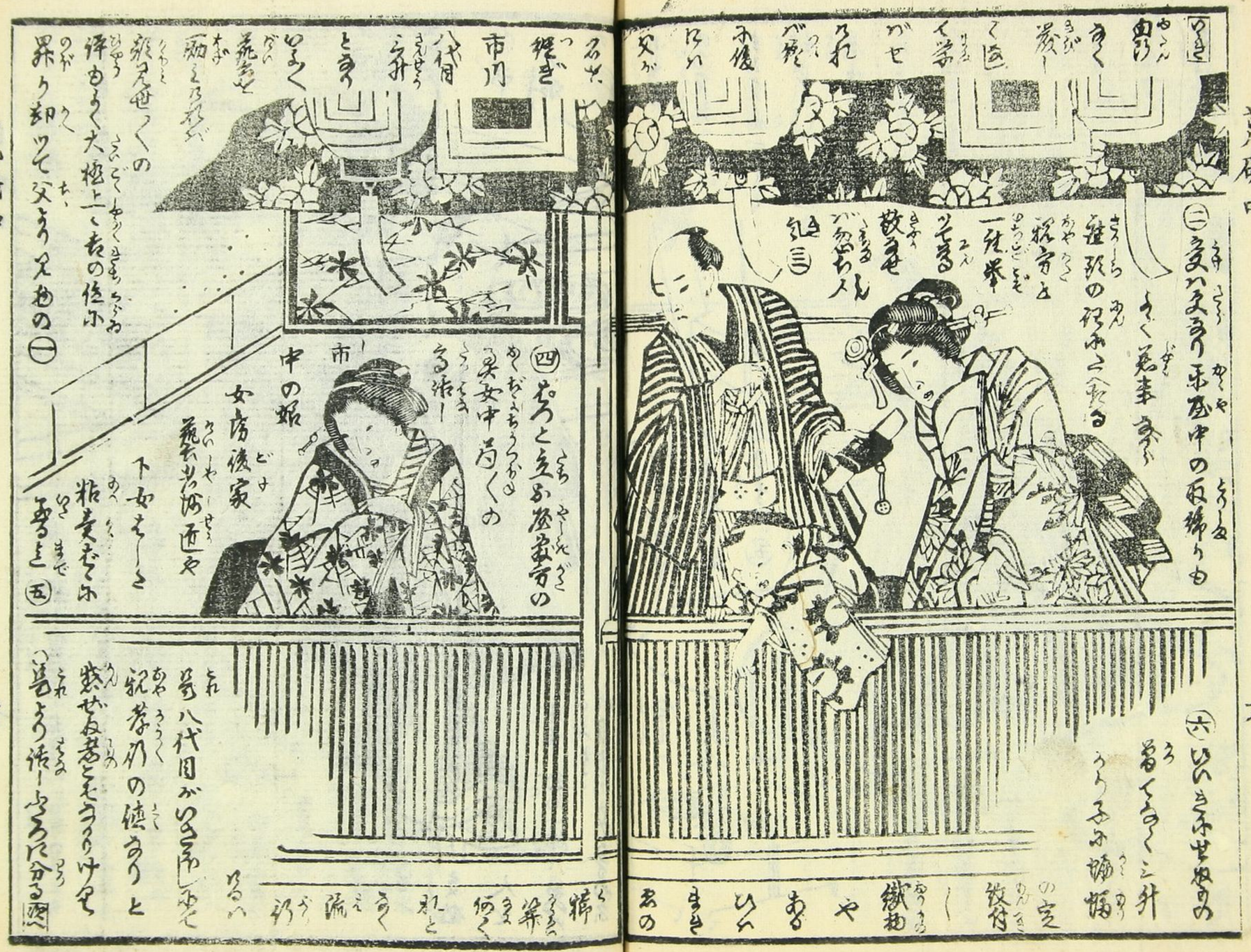


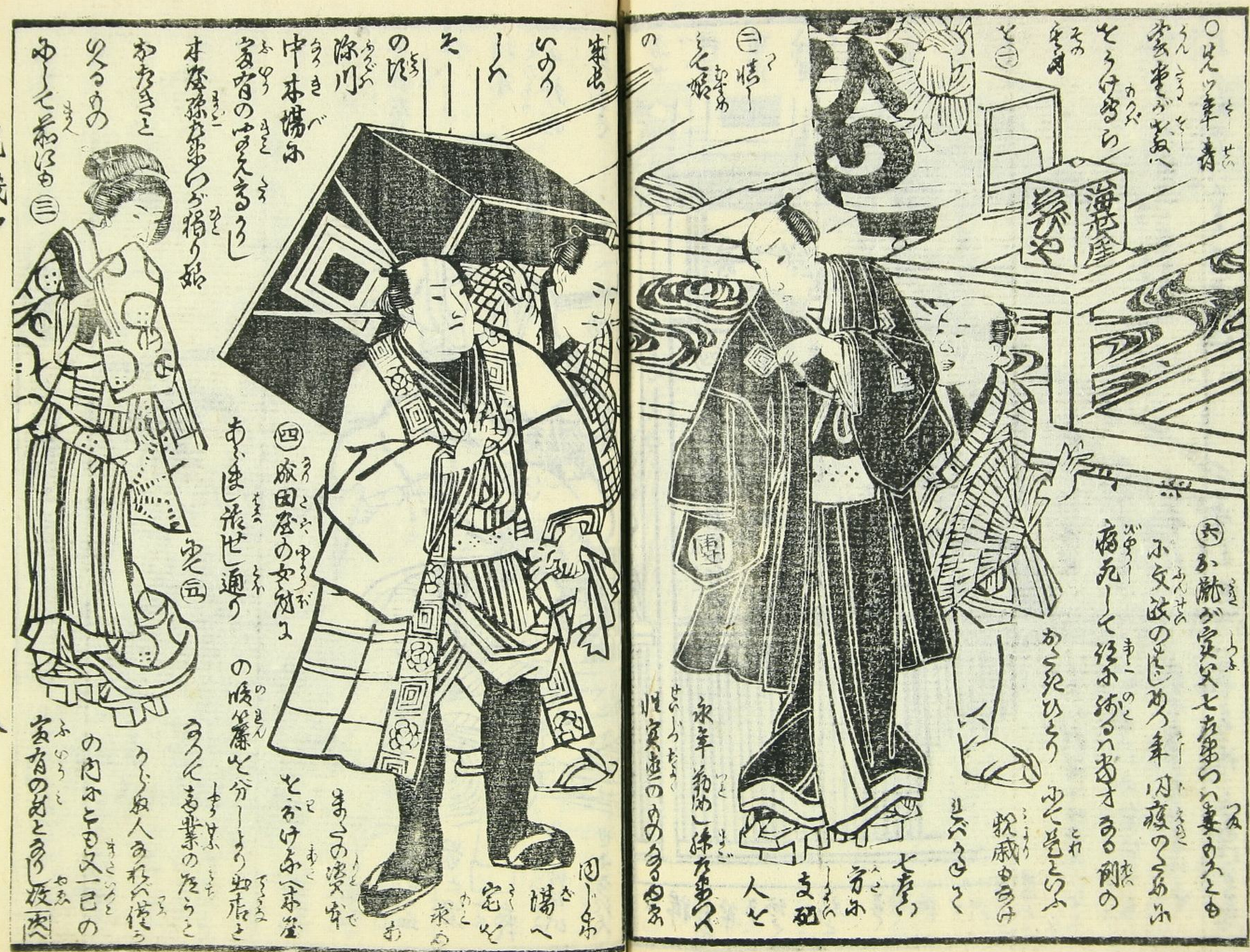
(二)通り客組
さん人人並もくもく
(四)足通しと
(五)
(六)
(七)
(八)
(九)
(十)

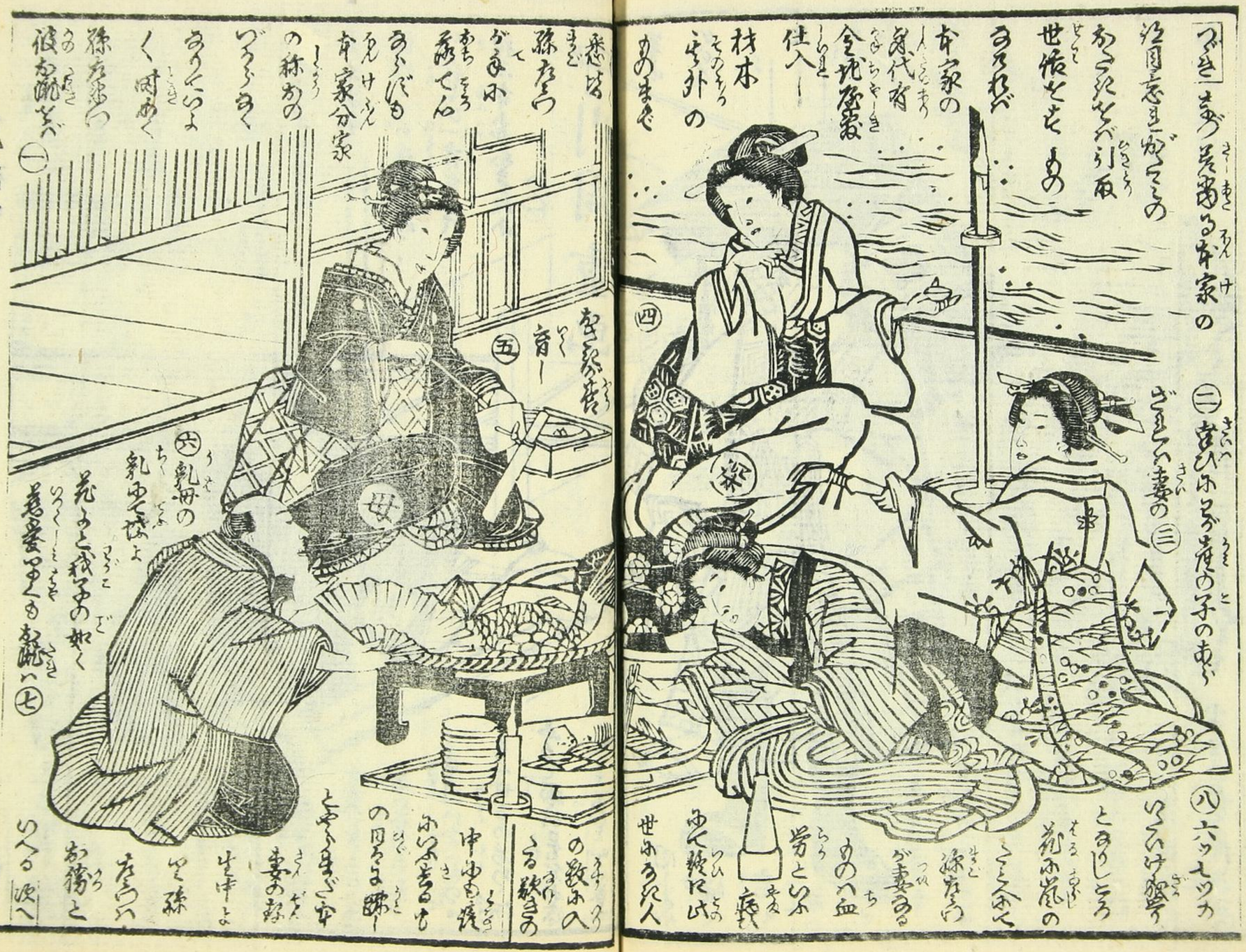
後室浄信院殿


つき
(六)活業の足対一寸踊りと西川扇蔵
が景色なれば返ぶ後新蔵一の名
家の就のい思るく蓋足と流も
と一ふ事色一と言て万を都
ものオあに
ゆと素面
めーく
笑も
つく交も
寿を天
とんけう
安栗
が五才
(三)父母の
義を自除く
深
世の
景
天
こと
なれ
廿五才と四十二の年
とその死と云伝へられも
ぞ一ぶい色ぞの人の居
るがを死難ふまきり寄飛る
と言葉のを分る暴れ乱同じ
親難の業氏ありこの時けいとるとるとの
親ぶ時も言れのうど面ありの月日ふ実ちあく
けとと言ふまを七代目三弁の群ろ安栗八(一)
人民業ふと呉業ふ
(つき二)
ぶ五才と四才の
の冬の
親ぶ
世ふ
ぶ
(三)
ぶ
(四)物出
ちつけと和めとして(五)落と
動め
寿を
よ
速和


つゞき
(二)
(三)
(四)
(五)
(六)
(七)


(三)
(四)
(五)
(六)
市川八代目


髪びや
海老屋


つゞき
まづ美濃の本家の
江戸表へ出ばたらき
かゝる所へ引取
世話をもあ
るうれば
本家の
家代有
金地家業
仕入
材木
其外の
あまた
(四)
(五)
(六)
(七)
(八)

つゞき 定繁清
の内近江屋
深て外宅さを
折〻多ふ通
ゆゝが多勝
い終ふ外ごりて
男の子を
儲け〻ゝ孫右衛門
の主をとび一方ゝ
待ふ本妻をまこれふ
八(一)

守川周重画

久保田彦作綴

(二) まごすけの
子のあらぶれ
べ者ひ家の
姿目と時見代
とめぐらんと加の内
ゆ見ぐるまぐ
生ひ人家の
ま人世ゝのあらく伝
ゝと嘶ひ見ゝも深
く色〻

下の巻へ

荒磯判京鯉魚腸 全編 久保田彦作著
名八代目團十郎 守川周重画

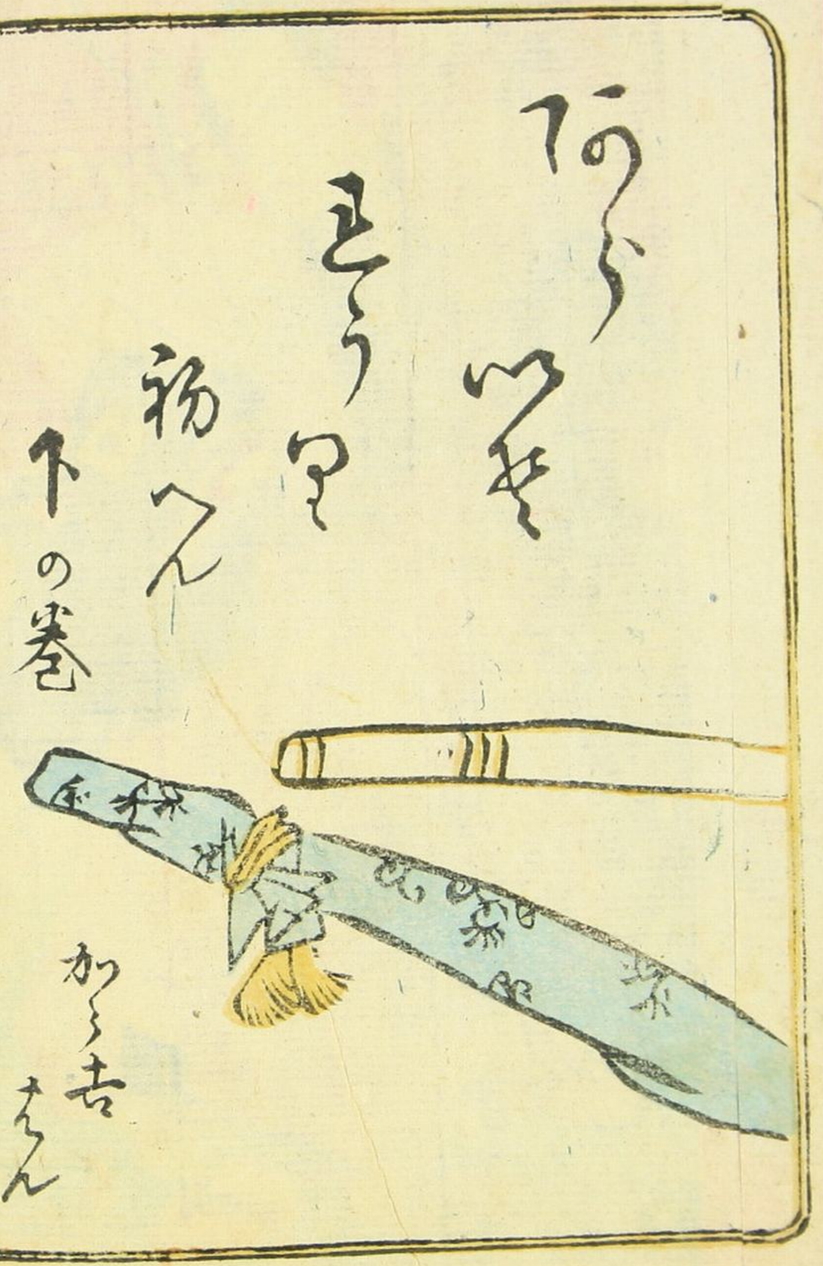
離の菊操鏡 三編 金花胡蝶伝 三編
浪速文京作 守川周重画
藤田仙果作

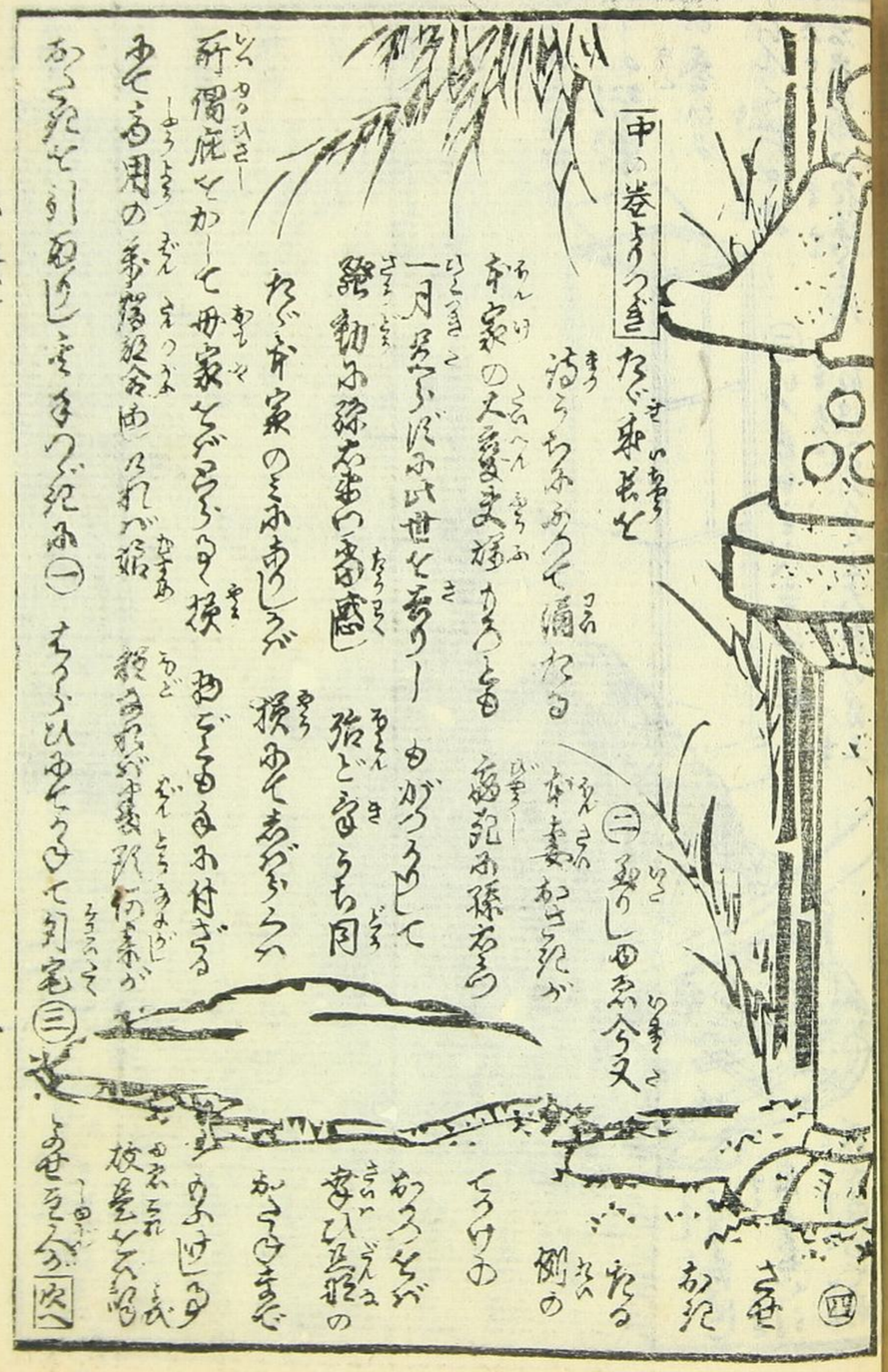
冬児立閻魔 三編 藻塩草近世奇談 三編
浪速文京作 孟斎芳虎画

舎 地本錦絵問屋 日本橋通西河岸吉川町五番地 青盛堂 加賀屋 堤吉兵衛

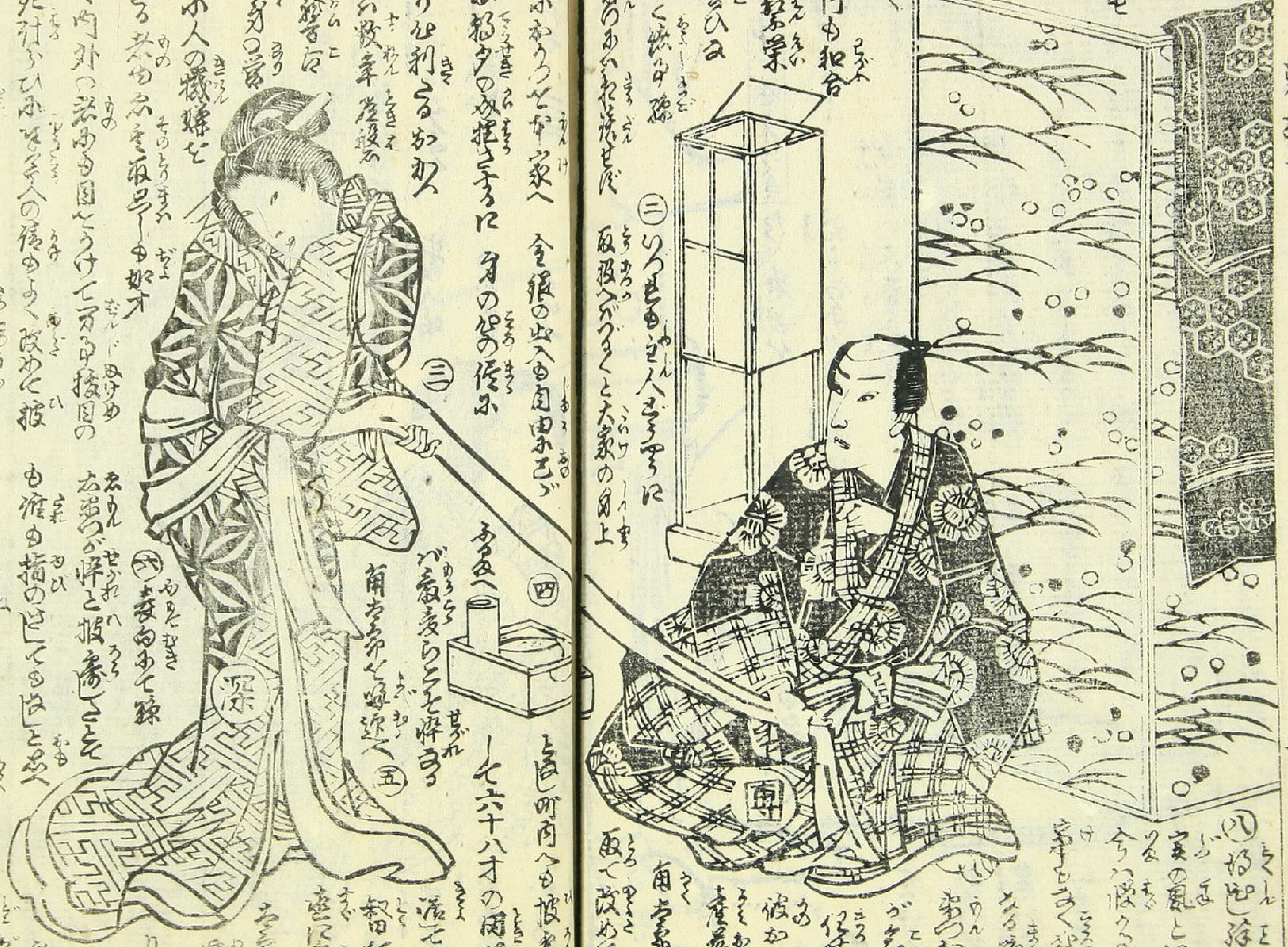
下
如賀吉版

中の巻





つゞき
世間とさぞ
たゞな
ら
郎
つゞく
家門も和合
しく繁栄
の基ひね
らんく然らず孫
右衛門の不和を流せし

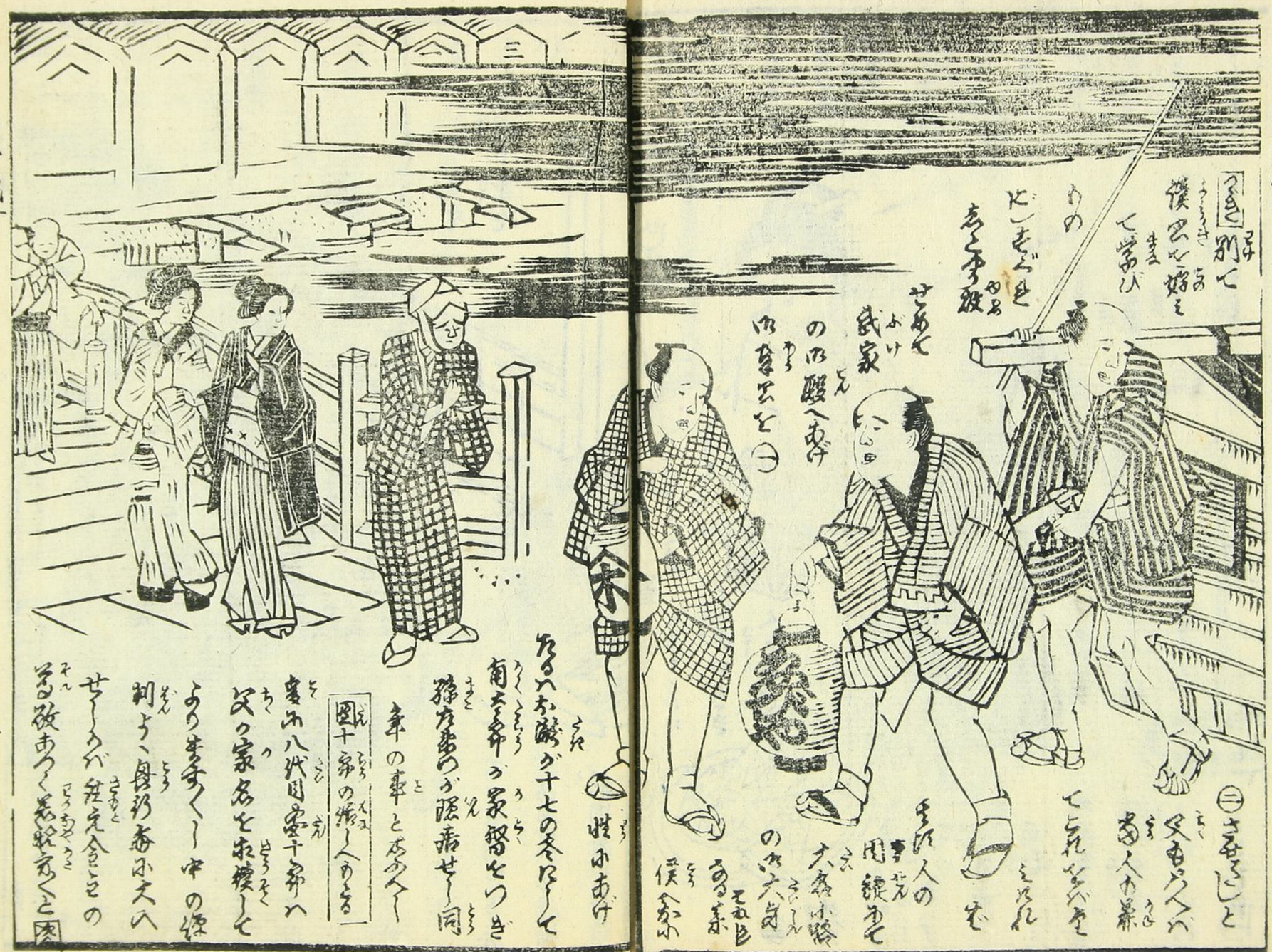


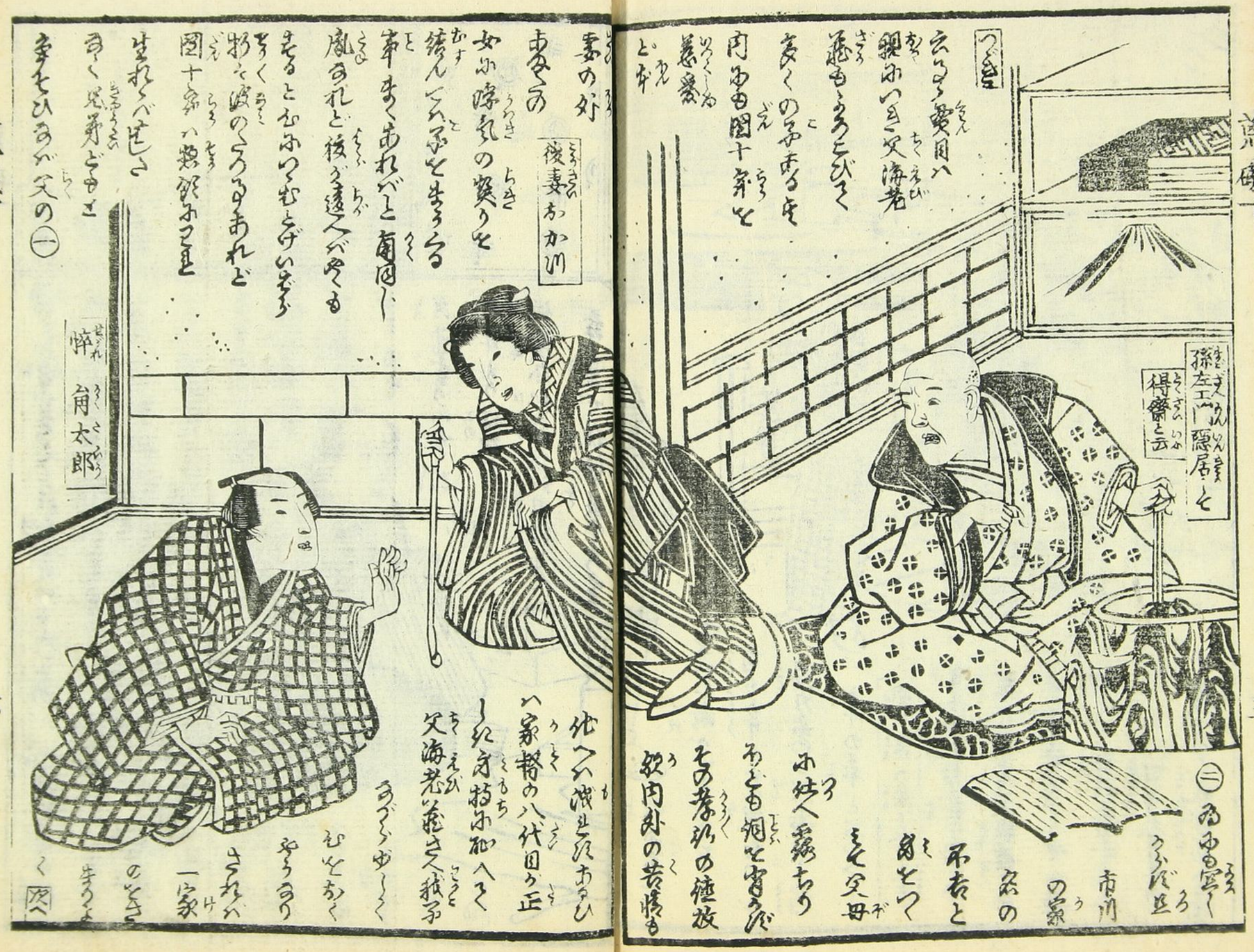
㊁ いろ出も主人…に
敢て…へかゝつくと大家の身上

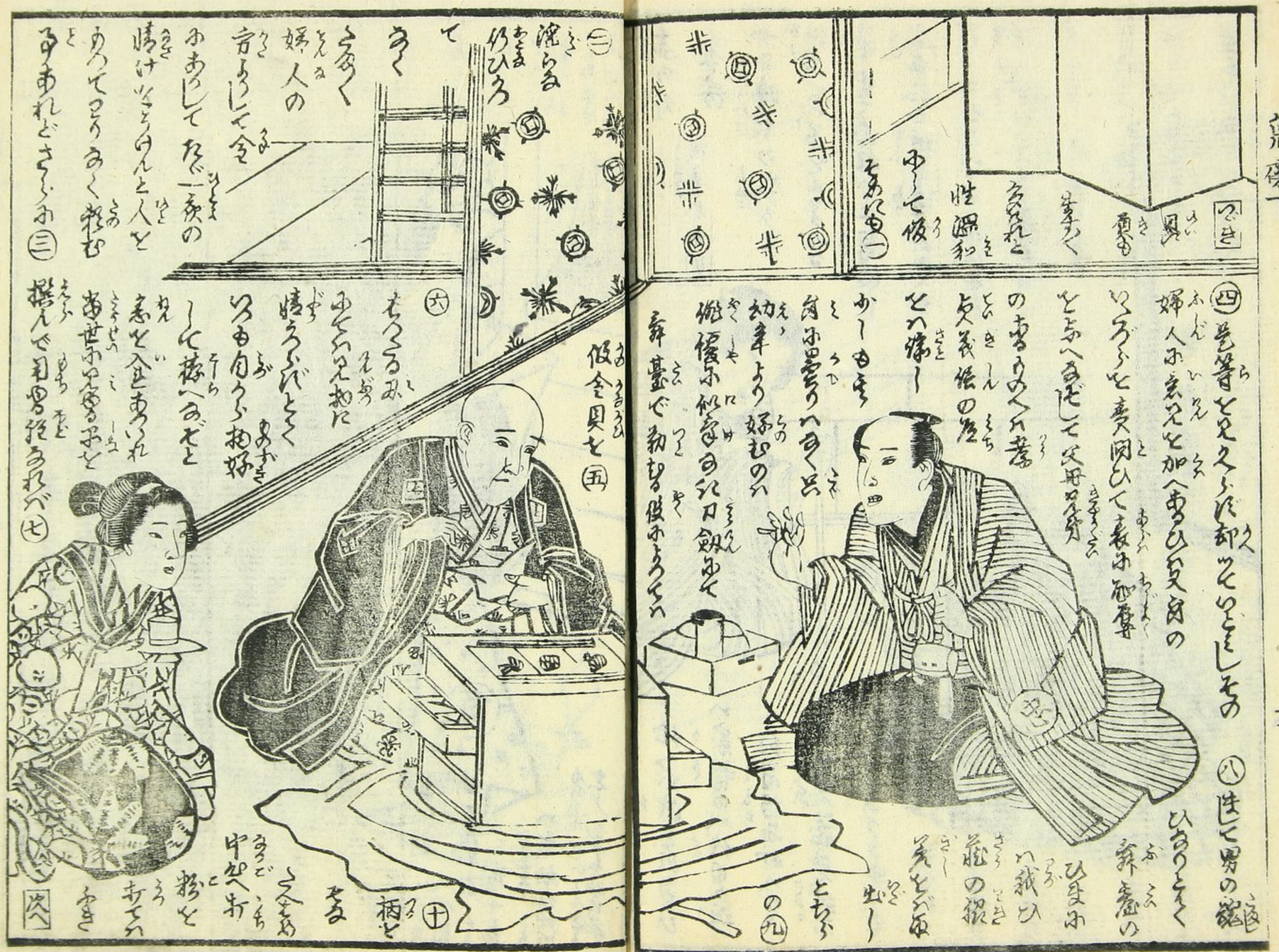
引取…の…さるに 身の…
…利るが…
…数年…
…の…
…の…
業ふ人の機嫌を
…奴才
…内外の…
…なく…
…一…
…

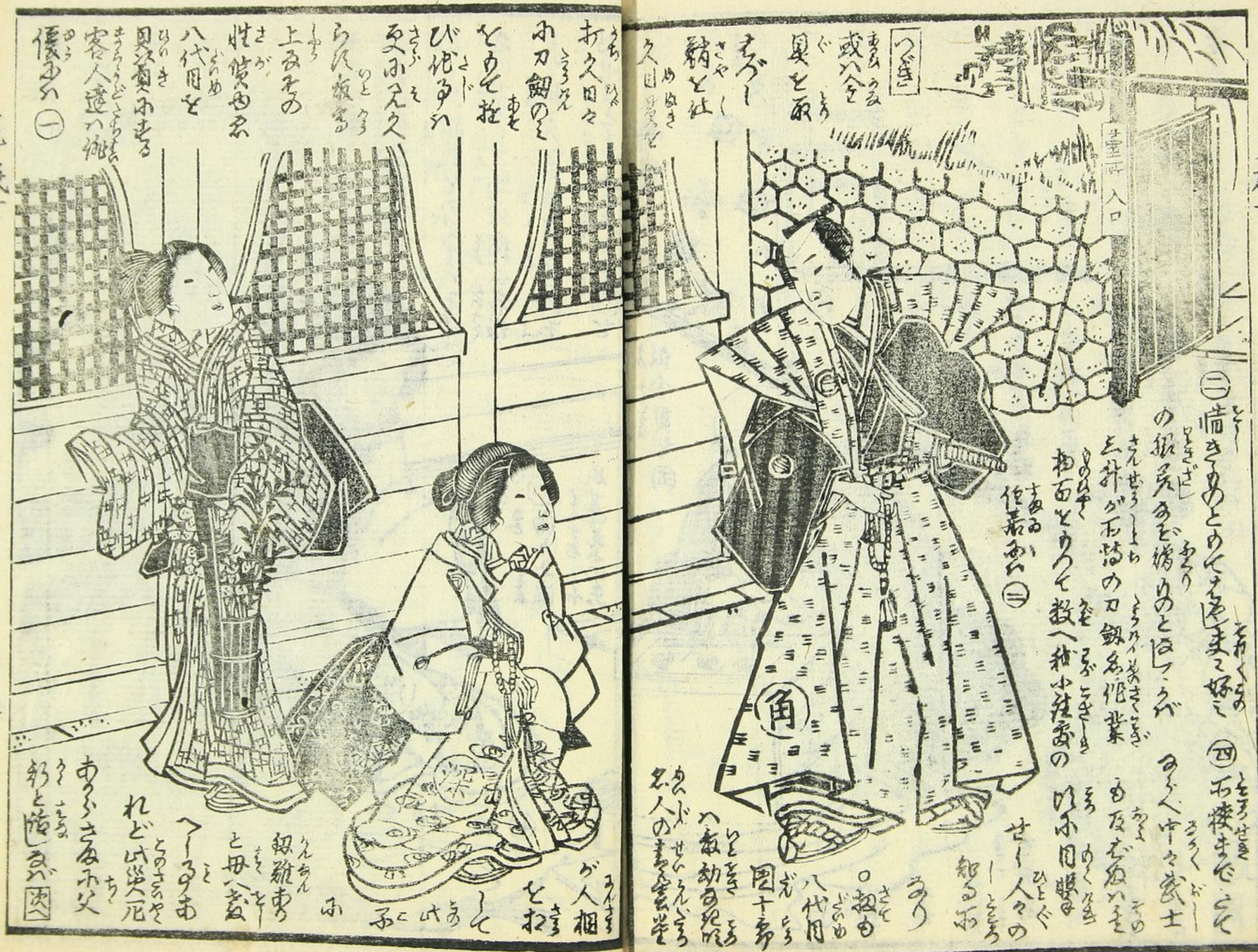
㊀
㊄ 一七六十八才の…
㊅
㊆ 内へ 次へ

つぎ
初くさの宝を捕て名も
得物と改名し改と刺りて
安永元辰年持となり
孫右衛門と幸も遠
ひこまつ宮を中ほど
家の内の故郷久八沼海
の傍に社へど
宝年八年家にあり七
門外の世話えん
も婦人帳面
これで
孫右衛門が
娘ひな
のあそび
とりか
今の月も七
と人ふいまつり
つぎ
枝や同盟ゆび行
八
色とりの
色人が舞
歌とさす
むしろ
を
春れ
ねば
実子ある
を南ちゃ彼
かろあも
家内ふ
同縁の糸
のあれを
引いて
ちゃ
とそ
ハ初ゑとろ
ゆる絵ふあ
四
れど果報拙く
父母ふ別を
ちゃ身代ふ分家ハ五
ふあつ
黒く去付娘
ゆ
ふ
ら
陶器
一
一
ハ
ほ
ら
ハ初ゑ
七月の祭
ふ三
娘
ハえこれを人
一


つるき
別て
僕共も好き
て学び
あの
だんまづを
あて
武家
の出殿へあげ
出家を（一）
（二）さあてしと
父母ゝへ
者人の業
てこれ学ぶを
を
手代人の
用聞あて
大名小路
の出入商
家
侯家小
性ゆあげ
なるへお殿が十七の冬にして
角太郎が家督をつき
孫左衛門が隠居せ〜同
年の春と成ぬ〜
図十 家の繁〜人のなる
当代八代目愛十郎へ
父の家名を相続〜て
より生まれ〜中の孫
利ゝ長男為小太へ
せ〜ゝば弟元吉とその
名跡あつく義絶ゝと


つゞき
孫左エ門隠居と
得意と云
(二)
市川の家の名の不吉と
家とて父母
妻の外
後妻おかゝ
如ふ除乳の奚りを
結んこゝろを生ずる
家まく
風ふれと後ゝ遠入べやくも
父海老義左衛門
悴 角太郎
(一)


つぎ
貴
茅ぶく
名ぶれと
性淵和
ゆーて仮
あれも一
四 芝等とえ久ふ部ゝそのことしその
婦人ふ云えと加へ事ひ交方の
いろふと変同ひて表ふ面葉
とふへるじて父母ふ名
の事ふめくれ著
とふきん
夫義仮の屋
とい嫁ー
かーもも
角ふ思りへすくに
幼年より婦むのい
俳優ふ似家ふ白れ口飯ふて
年墓で勿事る仮ふろたい
八 性て男の寝
ひろりとく
葬意の
ひまふ
い我ひ
龍の狐
笑とび
出ー
とちく
の九
仮金貝を五
流らる
仮ひろ
て
六
ふく
婦人の
方ふして金
ふあしてた一家の
時けいろりんと人と
あへてとりあく牧む
ふあれどさーふ三
むーるふ
ふてれえれに
時ろふびとく
いも自ふふ拘好
して接へふたと
志を入生あいれ
事世ふ変ふと
撮んで男性ふれべ七
十 柄と
ふる
中知へ街
ふ
松と
ふて
ふき


つゞき
入口
角

深

彦作綴周重画

（つゞき）あんの帰途を送れとゆへも思うあり愛女
成田屋へ手を引しく出入する村松町の刀屋
わくゝ来た所源氏とゆへ若き者
麦ぐゝとそ刀剣の（一）

（二）月利も
あく迄松へ出で
浪文を求め祇陸て
愛敬のあ人物放逸文点云も史
あり此幕府の作用達や町家の豪家へ立入てゆと
如才なく成田屋へも出入邑孤美なぞ美と（三）

○ゲニゝん三ぐん
引つゞき出板仕り

（四）後ゝ成れば家も栄ゝ成日三林が家と言
伝来不問と雲入国ゝ田の仇義白源と後
源氏へ向ゝ三編と初ゝ

此人物の本名
二へんふあり

御届
明治十四年
一月十日
芝区愛宕下丁四丁目二番地
編輯人 久保田彦作
日本橋区米沢町一七番地
出板人 堤吉兵衛

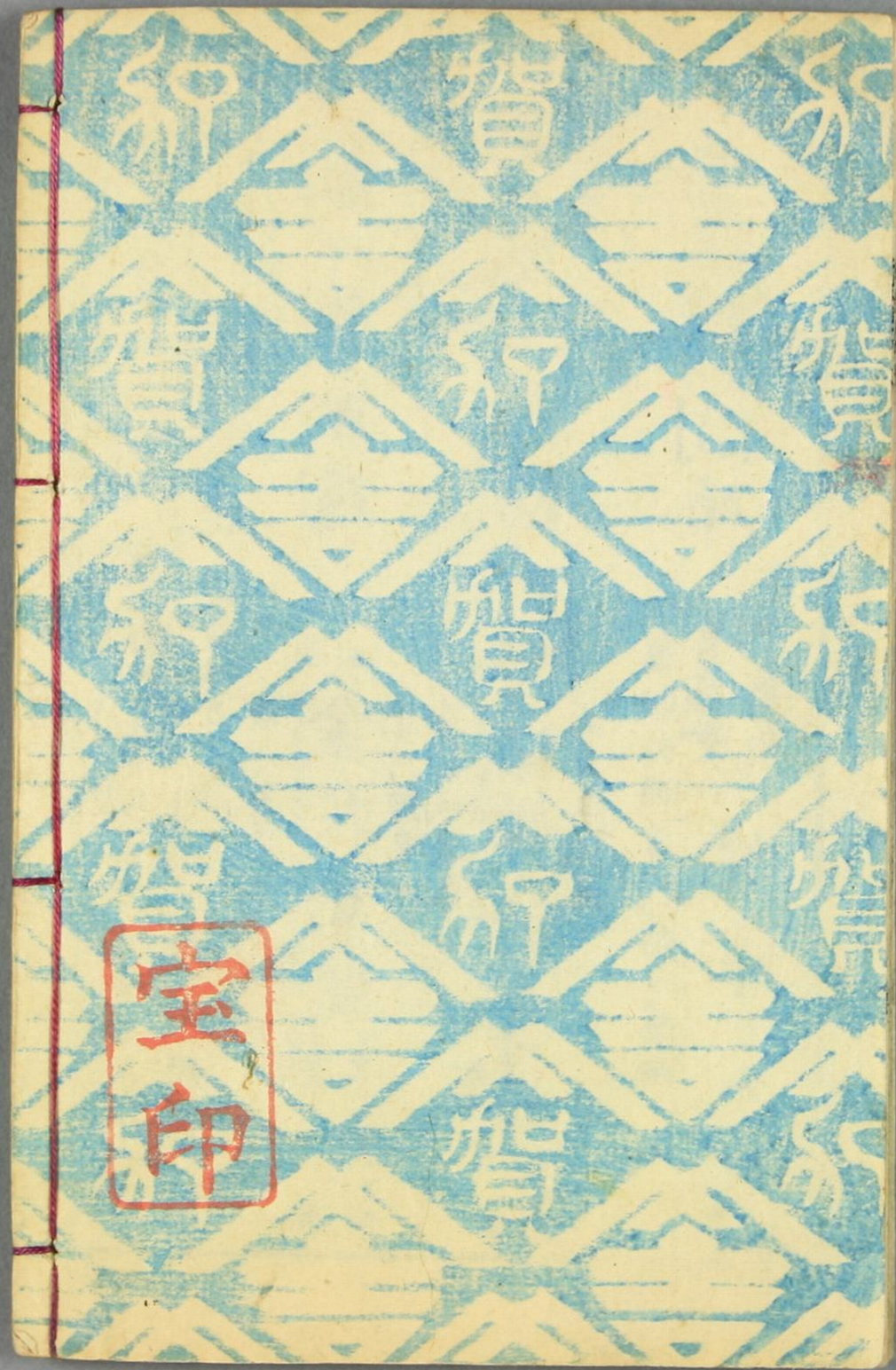
花魁判点鯉魚腸 五編 久保田彦作著
名八代目團十郎のはさし 守川周重画

離の菊操鏡 三編 渡辺文京作 金花胡蝶花 三編 守川周重画

冬の児立闇鳥 三編 篠田仙果作 藻塩草近世奇談 三編 孟斎寄虎画

金口 地本錦絵問屋 日本橋区横山町四丁目 青盛堂 加賀屋 堤吉兵衛

010190517859


宝印